

背景・目的

市内のナンバン栽培では、連作障害を回避するため接ぎ木栽培を行う場合があることから、昨年度の自根栽培の品種比較試験において成績が良好だった‘伏見甘長’について、標準品種‘札幌大長スーパーロング’と比較し、接ぎ木栽培における品種特性を明らかにしました。

結果

1. 収量性は？

（単位：kg/10a）

	収穫期間	総重量	規格内品			規格外品
			合計	うちA品	うちB品	
（標準） 札幌大長スーパーロング	7/3-10/6	2,633	2,545	1,392	1,152	88
伏見甘長	7/3-10/6	3,452	3,395	2,356	1,039	57

※A品：果実長 12cm 以上 14cm 未満，果実径 12mm 以上 17mm 未満の健全果実

B品：曲がり果，長果，太果，細果

規格外品：尻腐れ果，奇形果，着色果

‘伏見甘長’が標準品種より，
総重量及び規格内品が多い結果となりました。



接ぎ木苗
(4/24撮影)



試験圃 (8/15撮影)

2. 果実の形状，品質及び作業性は？（標準品種との比較による評価）

	平均一果重	果実長	果実径	果実色	果のそろい	辛み	作業性
伏見甘長	◎ 重い	○ 同じ	○ 同等	△ 薄い	◎ 優れる	◎ 辛くない	△ 劣る



札幌大長スーパーロング



伏見甘長

結果の活かし方

‘伏見甘長’は，‘札幌大長スーパーロング’と代替性があります。

ただし，‘伏見甘長’は下位節から新葉が多く発生するため整枝作業が必要なこと，黒く変色したアントシアン果が秋季に発生しやすいこと，接ぎ木活着率が低いことから，導入の際にはこれらを考慮する必要があります。